

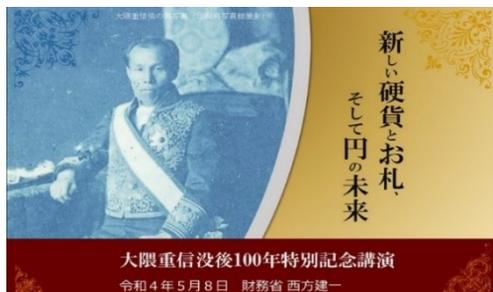
大隈重信没後100年特別記念講演「新しい硬貨とお札、そして円の未来」の開催

佐賀財務事務所では、財務本省・佐賀市・大隈重信記念館と連携して、円制度の立役者でもある大隈重信侯の没後100年を記念した「通貨」に関する特別記念講演を実施。

概要

- 当所では、令和3年11月の新500円貨幣発行や令和6年度上期予定の新紙幣発行を踏まえ、円制度の立役者でもある大隈重信侯*と通貨制度の関わりをテーマとした講演会を企画。
- 財務本省・佐賀市・大隈重信記念館と連携し、同記念館において例年開催している「大隈祭」の関連イベントに位置付けて、特別記念講演を実施。

※江戸時代末期から明治維新にかけて活躍した佐賀県輩出の偉人の一人である大隈重信侯は、令和4年で没後100年と節目の年を迎え、佐賀県内では様々な記念イベントが開催。



大隈重信侯（講演資料表紙より抜粋）
 ≪写真提供:国立印刷局≫



新500円貨幣・新紙幣イメージ
 ≪画像提供:造幣局・国立印刷局≫

取組の成果

- 財務省理財局国庫課の西方課長を講師とした特別記念講演には、コロナ禍における各種制限下でも34名が参加。
- 講演では円の誕生に深く携わった大隈重信侯のお金に関するエピソードのほか、改鑄(貨幣の刷新)や改刷(紙幣の刷新)の概要や意義を偽造防止技術の説明も織り交ぜながら、動画も活用しつつ説明。
- これからの通貨の話として、中央銀行デジタル通貨(CBDC)についても取り上げ、政府としての検討状況を紹介。



- 講演後アンケートでは「財務省がお金の企画・立案をきちんと色々な側面から考えられていることが良く分かった」との声
- 講演模様は地域のニュースや紙面上でも広く取り上げられ、一般の方々にも通貨行政を知っていただく良い機会となった